



# THAILAND ECONOMIC UPDATE

## January 2023

ศูนย์วิจัยกสิกรไทย  
KASIKORN RESEARCH CENTER

### 11月のタイ景気は緩やかな回復基調が続く

#### ▶ 要点

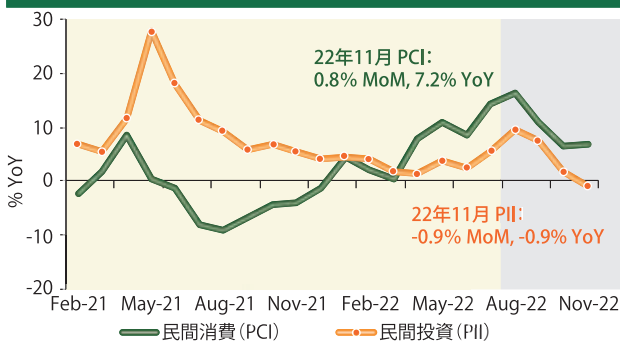
- ▶ 2022年11月のタイ経済は緩やかな改善が続いています。輸出が収縮したことにより景気に下押し圧力がかかっていますが、前月一時的に悪化した民間消費は持ち直しが見られており、外国人観光客数も回復を続けています。
- ▶ 2022年12月のヘッドライン・インフレ率は、前年同月比5.89%となりました。ウクライナ戦争によるエネルギー価格の高騰に伴い、ほぼ全ての品目が値上がりしています。振れ幅の大きい生鮮食品とエネルギーを除くコア・インフレ率は、前年同月比3.23%となりました。
- ▶ カシコリサーチセンターは、2023年のタイGDP成長率が3.2%になり、引き続き回復傾向になると予測します。2023年のタイ経済は、観光業が唯一の成長エンジンになると見込まれます。一方で、米国や欧州連合(EU)を中心とした世界経済が後退し、タイ経済回復の重石になると予想します。また、消費者物価と家計債務が依然として高い水準で推移しており、民間消費に下押し圧力がかかっています。
- ▶ タイ経済回復は、二極化する「K字型回復」が予想されます。回復が期待できる産業にホテル、外食、私立病院、小売りなどがある一方、回復が緩慢・落ち込む産業には不動産、電気・電子機器輸出が挙げられます。

#### ▶ タイ経済の動向

##### 2022年11月のタイ経済情報

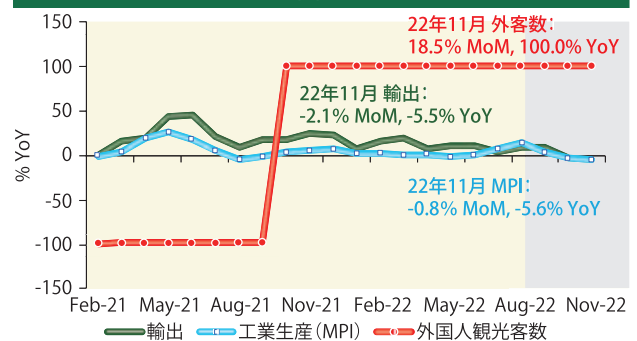
タイ中央銀行が発表した2022年11月の重要な経済指標によると、タイ経済は緩やかな回復基調を続けています。輸出が収縮したことにより景気に下押し圧力がかかっていますが、前月一時的に悪化した民間消費は持ち直しが見られています。外国人観光客数も回復を続けており、観光業を中心としたサービス業の業況が改善しています。

図1：民間消費と民間投資



出所：BoT, Ministry of Industry, Ministry of Tourism and Sports

図2：輸出、工業生産と外国人観光客数



備考：YoY=前年比；MoM=前月比

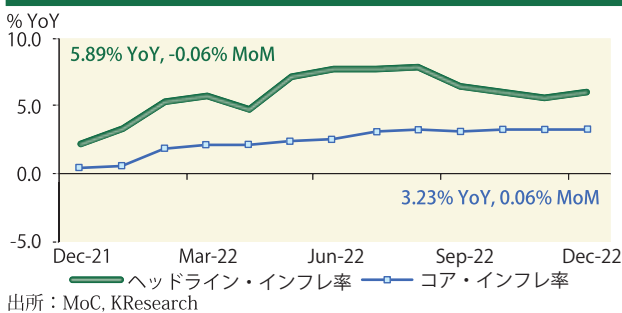
11月の民間消費は前年同月比7.2%拡大し、前月から加速しました。旅行者の支出が2.7倍に増えたほか、サービスが23.0%増と全体をけん引しました。このほか、非耐久消費財が2.7%、半耐久消費財が2.4%、耐久消費財が0.3%といずれもプラスとなっています。

一方で、民間投資は前年同月比0.9%下落しました。商用車の販売が▲10.1%、機械・設備を中心とした資本財の輸入が▲10.1%といずれも2桁減となっています。一方で、建材の販売は6.8%増、国内の機械販売は6.7%増、建設認可を受けた土地の面積は4.0%増と堅調に推移しています。

11月の輸出は、前年同月比5.5%減の222億米ドル、金を除いた輸出額は4.6%減の220億米ドルとなりました。輸出は主な仕向け地で需要が停滞していることから、悪化が続いています。

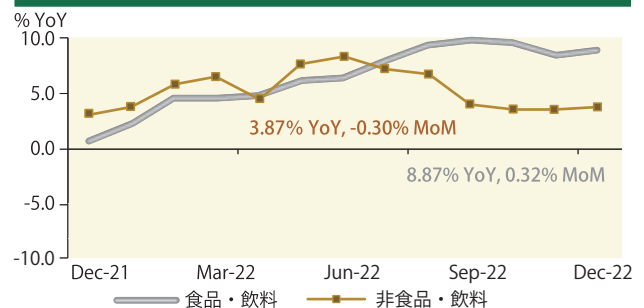
工業生産に関しては、前年同月比5.6%縮小しました。輸出の落ち込みが製造業の業績を下押ししています。一方で、外国人観光客、特に欧米からの観光客が増加しており、この結果、サービス業の活動は上向きを続けています。

図3：インフレ率



出所：MoC, KResearch

図4：食品・飲料と非食品・飲料の物価



商務省が発表した2022年12月のヘッドライン・インフレ率は、前年同月比5.89%となりました。上昇率は4カ月ぶりに前月を上回ったものの、3カ月連続で6%を下回るなど鈍化傾向が続いています。ウクライナ戦争によるエネルギー価格の高騰に伴い、ほぼ全ての品目に値上がりが見られています。

品目別にみると、食品・飲料部門は8.87%上昇しました。肉・魚が12.20%上昇したほか、総菜類が9.94%、卵・乳製品が9.88%、調味料が6.49%、果物・野菜が5.61%、米・粉製品は5.40%と軒並み上昇しています。非食品部門も3.87%上昇。運輸・通信が5.65%上昇し、全体を押し上げています。

一方で、振れ幅の大きい生鮮食品とエネルギーを除くコア・インフレ率は、前年同月比3.23%と、前月と比べ横ばいとなりました。

### 2023年のタイGDP成長率は3.2%になる見込み

カシコンリサーチセンターは、2023年のタイGDP成長率が3.2%となり、引き続き回復傾向になると予測します。米国や欧州連合（EU）を中心とした世界経済が後退し、タイの経済回復の重石になる一方、観光業が唯一の成長エンジンになると見込まれます。また、消費者物価と家計債務が依然として高い水準で推移しており、民間消費に

単位：%YoY、若しくは別は別に指定する単位	2021年	2022年f	2023年f
GDP成長率	1.5	3.2	3.2
民間消費	0.3	5.6	3.0
公共投資	3.8	-1.7	2.3
民間投資	3.3	4.3	2.8
輸出成長率	17.4	5.2	-1.5
輸入成長率	29.5	13.6	-3.8
ヘッドライン・インフレ率	1.2	6.1	3.2

出所：カシコンリサーチセンターの予測（2022年12月）

下押し圧力がかかっています。一方で、世界経済の鈍化により、タイ輸出は2022年のプラス成長からマイナス成長に転じると予想します。

2023年のタイ経済は全体として回復傾向にあります。二極化する「K字型回復」が予想されます。回復が期待できる産業にホテル、外食、私立病院、小売りなどがあり、回復が緩慢・落ち込む産業には不動産、電気・電子機器輸出が挙げられます。

監修：カシコンリサーチセンター

本資料は情報提供を唯一の目的としており、ビジネスの判断材料とするものではありません。掲載されている分析・予測等は、資料制作時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。また、予測の妥当性や正確性が保証されるものでもありませんし、商業ないし何らかの行動の為に採用することから発生した損害の責任を取れるものでもありません。本資料の予測・分析の妥当性等は、独自でご判断ください。

www.kasikornbank.com  
K-Contact Center 02-8888888

KBank Live



KBank Live



KBank Live



KBank Live

บริการทุกระดับประทับใจ